

## 白猫でも、黒猫でも、鼠を捕る猫は・・・

生活保護申請支援団体にも色々ある、良し悪しの判断基準は何？

### 「貧困ビジネス」とは何か、「食い物にされる」とは・・・

賢い鼠は、猫を避けることができる

「扇町公園にいたら、コーヒー飲んで、パンでも食べながら、ゆつくり、話をしたい、と声を掛けられた。顔写真付きのNPO〇〇〇〇のカードを渡されたが、これ大丈夫やるか？」

センター周辺でも、難波でも天王寺でも、いたるところで声掛けはあるようです。

随分前の声掛けの中身は、就職世話するから住民票持ってきて、というのや、戸籍貸してくれたら10万円渡す、というのが主流でした。もつと前は「タコ部屋」に送り込む駅手配・公園手配が専らでした。

最近では、アパート世話して、生活保護申請の手伝いをする、というのが多いようです。

「白い猫でも、黒い猫でも、鼠を捕る猫は良い猫だ」という諺が中国にあるそうで、鄧小平がその言葉を使って日本でも一時期有名になりました。目的が達せられるのであれば、黒猫でも白猫でも良いではないか、というわけです。

公園やセンター周辺で野宿し、あるいは夜間宿所を利用する困窮状態にある人が、生活保護制度を活用しようとした時に、その手伝いをしようと申し出る人が、沢山いることは、喜ばしいことです。白い猫であろうが、黒い猫であろうが、どうでもいいことです。

しかし、現実はいかならないようです。新聞やテレビなどで、「貧困ビジネス」が伝えられています。

アパート・マンションを紹介し、生活保護申請の手伝いもする、そのかわり、指定の業者から弁当を取らなければならぬ、あるいは、サービス料を差し引かれる、通帳も管理される。生活扶助費は8万円なのに、当人にわたるのは、3万円くらい。

ようするに、パクツと食うわけではないけれど、ジワジワ食い物にしようという猫がいるわけです。生活保護を受けても、その先の生活がうまく成り立つかどうかが大問題で、どの猫が良い猫か、多くの人が思い悩んでいる状態だと、思われます。

声は色々かかるが、どの猫が良い猫か思い悩んでいる間、生活保護活用は先延ばしになり、困窮状態が長引く、ということになりがちです。特掃に登録している人は、輪番の回りもよくなったし、マア、しばらく現状維持でいいか、という気分もあるかと思いますが。生活保護水準以下であるには違いないのですが・・・。

どうすればいいのかは、単純です。自分のことは、自分でよく考えて、行動する。これにつきまます。

生活保護申請は、そう難しいことではありません。現在希望者に配っている「手引き書」を読めば、申請にあたっての予備知識を得ることが出来ます。アパート・マンション探しも、そう難しいことではありません。電話をすれば、センター近くまで来てくれる不動産屋もあります。

他人の知識や力を借りるにしても、自分で予備知識を持ち、一定の判断基準を持っていけば、騙されたり、食いものにされることはありません。声を掛けられたから選択するのではなく、自分が声を掛けて、情報を集め、直接福祉窓口や不動産屋へ足を運べば、まず、騙される心配はありません。もし、それで失敗しても、一回目の積極性があれば、やり直す事は容易なことでしょう。

最初の一步は、制度をよく知ること。手引き書の活用を

生活保護は、無差別平等、困窮の事実に基づいて、誰でも（永住権を持つ外国人を含む）活用することが出来ます。

65歳以上でなければ、あるいは病気でなければ受けられない、というのはウソです。

大阪市立更生相談所（市更相）は、阪堺線の東側、公衆便所横のガードを東に抜けて、交差点を渡ったところにある建物です。

医療センター（大阪社会医療センター）は、「ある時払いの催促無し」、借用書で受診できる医療機関です。市更相あるいは西成労働福祉センターで診療依頼券をもらってから行く必要があります。

医療センターは、センターの建物外の東側に入り口があります。

「自助努力援助のための手引き書—生活保護は怖くない」（無料）をまだ受け取っていない人は、声を掛けてください。手引き書を読んだ後は、役所で保護申請、不動産屋へ。

20歳から50歳代前半くらいまでの人は、自立支援センターを活用する道もあります。寝場所・食事を提供し、就職活動を支援する施設です。入所希望者は、大阪市立更生相談所（市更相）で相談を。

不動産屋さん紹介（気軽に相談を。しかし、真剣に）

※ 双葉商事さん（電話 ~~06・6561・4392~~）

鶴見橋商店街の奥（西の端）。敷金不要の今すぐ入れる物件もあります。勿論、風呂付き敷金要の物件も。とりあえず電話で時間を決めて、その後の段取りを決めましょう。

※ フラップさん（電話 ~~06・6658・8888~~）

26号線花園交差点、イズミヤの南6~7メートル。西成区以外の物件もあります。

必ず、実物（部屋）を2~3見て比較、周囲の環境を考えて、得心して決めましょう。